

# とやま 市P連



シリーズ  
親として子どもになにをしてあげられるか…P2・3  
いかがですか、こんなPTA活動……………P4・5  
市P連この1年、各委員会事業報告……………P6・7  
ありがとう小羽小学校……………P8

富山市PTA連絡協議会広報紙 【第80号】 2008年12月発行



次ページへ

最近、TVや新聞で小・中高生の深刻ないじめ問題がよく取り上げられ、自殺に追い込まれている子どもたちの話を耳にします。しかしこのようなケースでも、親はいじめに気づかず、取り返しが付かなくなつてから気づくという結末がよく見受けられるようです。

子どもがいじめられていても、親はそれと気づきにくいのがはじめなのです。

私たちは、「親として子どもに何をしてあげられるか」を考えてみましょう。



平成20年10月3日 小羽小学校、稲刈りの風景 (本文P8)



# あげられるか ~いじめと不登校の実態~

## いじめは深刻な社会問題です！

### ◇いじめは社会問題

今、社会の至るところでいろいろな形でいじめが発生しています。

学校では恐喝やネットでの誹謗中傷など犯罪行為となる悪質ないじめが起こっています。職場では、モラハラ、セクハラ、パワハラなど主に上司から部下へのいじめ行為が多くなっています。

ここで最初に言っておきたいことは、

### ◇いじめの方が悪い！

これに尽きます。「いじめられるほうにも責任がある」などと思っている方は、まずそれを考え直してください。確かにいじめられる

人に、何かいじめられる理由はあるのかもしれないが、それがその人をいじめていいことになるのでしょうか。

いじめは、悪であり卑劣な行為です。いじめられる人が反省するのではなく、いじめた側がまず謝罪して自分の行いを反省すべきなのです。

### ◇なぜこんなにいじめが

いじめは、子どもの世界に限らず大人の世界でも起こっています。どうしていじめが横行するのでしょうか。これはひとつには現代社会がストレスを増大させる状況にあるからだと考えられます。

日本の社会では、そもそもいじめを許容する傾向が強く、しかも集団で個人に対して集団の意向を認めさせるためにいじめを黙認することがあり、ある意味子どもたちの

世界よりも質が悪いのです。そもそも子どもがいじめ云々以前にそのような社会から正すべきかもしれない。

### ◇いじめの傍観者もいじめの共犯者

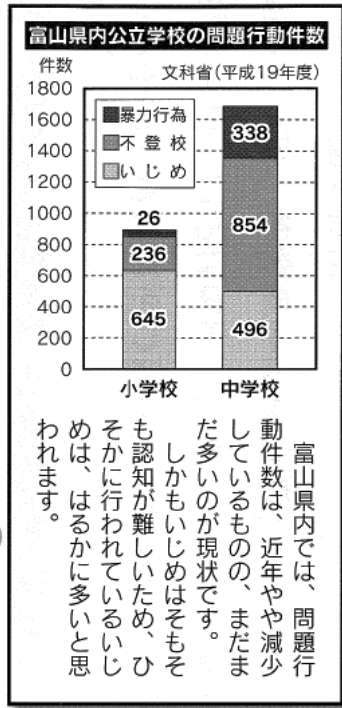
いじめがクラスで発生し、特定の生徒があるグループにいじめられている状況で、特にいじめに参加していない生徒がいたとしても、その生徒もいじめの共犯者と言えます。つまりその生徒にしても、内心忸怩たる思いでいるかもしれないませんが、下手にかばうと今度は自分がいじめの矛先が向かうかもしれないと思うのでなかなか手が出せないのです。

ですから、結局はいじめを見て見ぬふりすることはいじめに荷担することになり、積極的にいじめに参加していなければ無関係ということにはならないのです。

言い換えれば現代ではそれだけいじめが深刻化、陰湿化しているという事を意味しているのです。

### ◇サイバーいじめ

最近では「学校裏サイト」と呼ばれるブログや掲示板を見かけることがあります。ここでは学校のクラスメイトや教師を中傷する内容や、



富山県内では、問題行動件数は、近年やや減少しているものの、まだまだ多いのが現状です。しかもいじめはそもそも認知が難しいため、ひそかに行われているいじめは、はるかに多いと思われる。

### ■いじめの具体例

いじめでもっとも多いものは、「からかい、冷やかし」と言われています。これは、従来からたいへん多い事例であり、いじめなのかどうか判断が難しい場合も考えられますが、継続して行われていけば、いじめと判断できます。

次に多いのが「言葉による脅し」です。中には、単なる脅しにとどまらず、恐喝に発展したり、万引きを強要したりと、悪質な事例も見受けられます。しかし恐喝や万引き

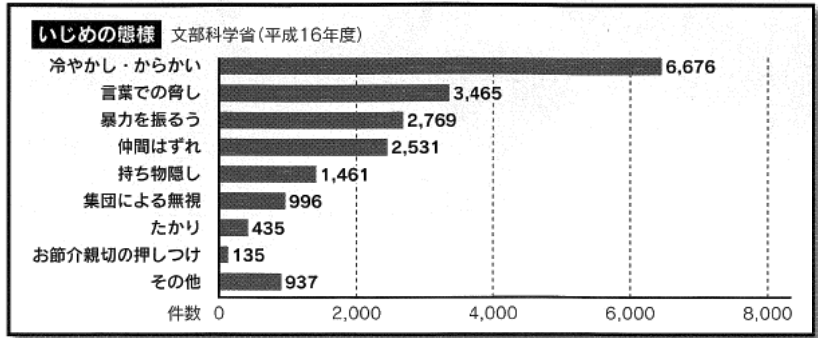
強要といったケースは、隠れて行われるので、本人が言わないと発覚しにくいのです。次に「暴力を振るう」で、グループで一人に対して暴力を加えるというケースがあり、刑事事件に発展することもあります。

統計上では次に「仲間はずれ」がありますが、おそらくこれは実態とは異なり、潜在的には、はるかに多い事例で、無視を含めると「冷やかし、からかい」と同等かそれ以上の件数があると思われます。

性体験を告白する過激な内容の書き込みがあり、いじめの温床になっている感すらあります。この種のサイトでは特に問題のない内容の書き込みがなされているサイトもありますが、誹謗中傷の類が書き込まれているサイトもかなり存在し、誹謗中傷の対象がハンドルネームではなく実名での書き込みがなされているケースも少なくないようです。

この学校裏サイトをいじめに悪用しているケースが多くなっていて、対処も困難なのが実情なのです。

ここでは本人が知らないうちに虚偽の悪い噂を流したりプロフに本人の情報を掲載したりと名誉毀損に当たる行為を行い、これが元で自殺に追い込まれる事すらあります。



# シリーズ 親として子どもに何をして

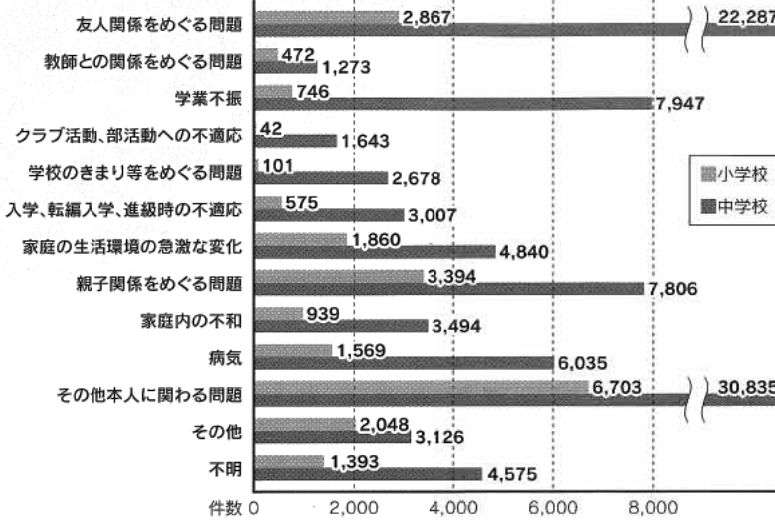
## ◇いじめの気配へは

いじめはもともと保護者側には把握しにくいものです。学校で何が起きているのか保護者にはなかなかわかりません。しかも子どもはいじめを受けていても親にはなかなか打ち明けてはくれません。となると、保護者としてはたえず子どもの様子に注意を払い、何か変だと思ったらすぐに何らかの対処をしなければいけないでしょう。

## ◇不登校に対して

子どもが「学校に行きたくない」と言い出したなら、どうすれば良いのでしょうか。不登校の理由はいろいろあるでしょう。一過性のものであれば、さほど問題にはならないでしょうが、実は深刻な原因があり、子どもはその理由を言わないまま、学校へ行きたくないと言っているとしたら、これはたいへんです。不登校になったきっかけを

不登校になったきっかけ 文部科学省(平成17年度)



グラフをみると不登校になったきっかけはさまざまですが、友人関係をめぐる問題からと本人に関わる問題が圧倒的に多く、前者の問題の多くはいじめがからんでいるものと考えerる必要があるでしょう。

見ると、中学生で多いのは本人に関わる問題以外では友人関係の問題が多く、この中にはいじめに関係したものも相当含まれていると考えるべきでしょう。

## ◇親として何ができるか

いじめが原因で学校へ行きたくない子どもが言っているとしたら、その問題を放置して学校へ行かせるのは、たいへん危険であると考えざるを得ないでしょう。

こうなると子どもだけでは解決しないので保護者としての対応を取る必要があるでしょう。

## ◇学校側と連携

いじめがあるとわかったらまずは学校側に相談しないといけないでしょう。単純なケースならこれで簡単に解決できるかもしれませんが、だが学校側がいじめの実態を把握できなかつたり、あるいはいじめの実態究明に積極的でなかつたりしたらこれは由々しき事態になります。

しかし、いじめがあるとはつきりしている場合には、解決しないままに登校させる事は、いじめがエスカレートする可能性が高く、たいへん危険です。

## ◇親の面子は二次

子どもが学校へ行きながらいない時に、はつきりといじめがあるか、またはその疑いがある濃厚な場合には、子どもを無理に学校には行かせず、保護者として学校側と話し合い、どう対処するかを決めるべきでしょう。それで保護者として納得できるまでは子どもを登校させるのは危険です。

これでいじめが解決できればいいのですが、深刻なケース、解決困難なケースでは実際に転校することで解決した事例もかなりあります。保護者である私たちは、自分の面子ではなく、あくまで子どものことを第一に考えて行動するべきであるという大前提を忘れてはならないでしょう。

## ■いじめ・不登校の兆候は

家庭で子どもが何かおかしいと思ったら危険信号。子どもの以下の兆候を見逃さないようにすることです。何かあったら早めの対処が必要です。

- ①家族との会話や食事を避けるようになる。口数が少なく、学校や友だちのことを話さない。
- ②部屋にこもり、考え事をしていて時間が増えている。
- ③感情の起伏が激しくなり、動物など自分より弱いものをいじめる。
- ④帰宅が遅くなり、外泊したりする。
- ⑤衣服に汚れや破れがあったり、身体にすり傷や打撲のあとがあったりする。
- ⑥学校に行きたがらない、あるいは通学時間になると身体の具合が悪くなったりする。
- ⑦食欲がなく、眠れないと訴える。うつ状態になっている。
- ⑧宿題や課題をやらない。学習時間が減る。成績が下がる。
- ⑨家から品物、お金がなくなる。つかい道のわからないお金を欲しがらる。
- ⑩持ち物をなくすことが多くなる。また、持ち物が壊されたり、落書きがあったりする。
- ⑪無言電話、発信者の特定できない電子メールがある。受信した電子メールをこっそり見る。
- ⑫電話が鳴るとビクビクする様子が見られる。



# こんなPTA活動!!



## 小見小学校



### 笑顔、声援の『小見つ子』 駆け抜ける『小見つ子』

九月十四日(日)、『小見つ子』全十九名と住民約三百名が一堂に会し、小見地区秋季大運動会が、大自然に抱かれた立山山麓で開催された。晴れの舞台は、緑豊かな論田山山麓、二十メートル級ジャンプ台のある小見小グラウンド。その間を地鉄のかぼちや電車が観客を乗せて行き来する。競技は、全校児童参加の持久走、卒業した中高生が伴走をつとめる。また、先生対全校児童の綱引も見物である。全員参加の応援合戦・鼓隊・リレーに一喜一憂する子どもたち、地域がふれあい、六百の瞳輝く一日。共同の牧歌的な結びつきが『小見つ子』を育む!

## 岩瀬浜漂着物調べ!

九月九日(火)、海岸に漂着したごみの調査が、岩瀬浜海水浴場で行われました。この調査は、環日本海環境協力センターが、海辺の汚染実態を把握しようと、毎年行われています。今年も岩瀬小学校五年生をはじめ他の団体も参加してのごみ拾いとなりました。

参加者は、ごみを一つ一つ丁寧に集め、集めたごみをブルーシートの上に広げて、プラスチック、紙、缶など八種類に分類し、それぞれの重さと個数を測って調査は終了しました。

この作業を終えた子どもたちは、ごみの多さに驚いたのと、ごみの投げ捨てはよくない、きれいな海を守りたい、と気持ちを新たにしていました。



## 岩瀬小学校

## 城山中学校



### 夜までフリートークング

十一月七日(金)、城山中学校において、PTAが主催するPTA懇談会を開催しました。

懇談会では、「インターネット、携帯電話」、「モニターペアレント」、「家庭教育」、「食育」の四グループに分かれて、バスセッション形式で各々のテーマについて話し合いました。

各グループは、これまでになく活発な討論で盛り上がりました。特にインターネット、携帯電話では実際にパソコンを使って検証しながらの討論で時間を大幅にオーバーするくらいでした。

## ふれあいフェスティバル

十月二十六日(日)、『堀小ふれあいフェスティバル』が開催されました。今年には各コーナーで新企画が登場し、好評を得ました。

食堂では児童によるピアノ演奏の中、手作り焼きそばなどを味わう人でにぎわいました。内容を一新したゲームやくじ引きからは歓声が絶えず、提供品や手作り品の販売も行列ができるほどの大盛況でした。

また、PTAの各クラブの発表も花を添え、たくさんの人に楽しんでもらえた一日となりました。



## 堀川小学校

### もしものときは学校に



## 熊野小学校

八月二十三日(土)二十四(日)にかけて『学校に泊まろう!もしもの時は学校に:~』を開催しました。この企画は、学級会で話し合われた内容に基づき、子どもたちとPTAの協議(名称・親子丼会)を踏まえ実現したものです。

当日は、防災体験(はしご車・放水・起震車・煙中体験等)や防災クイズを通じて、災害に対する「備え」の重要性を学ぶとともに、夕食時には親子で力を合わせ、「炊き出し」にも挑戦しました。

今回の企画は、災害時の集合場所である「学校」において、さまざまな防災体験や寝食を共にすることで、相互扶助の必要性について改めて認識する良い機会となりました。



# いかがですか

## 新庄校下文化祭!

十一月二日(日)、新庄校下文化祭が行われました。新庄小学校PTAは、各委員会ごとにの出店しました。

ベルマーク委員会は喫茶コーナーで、ケーキ、サンドイッチ、飲み物の販売、保健安全委員会は、フランクフルトと焼きそばの販売、広報委員会は、学用品リサイクルとアイスクリームと古本の交換、厚生委員会は、スライムとフェルト玉の手作り体験、父親委員会は、焼き鳥、団子、わたあめ、水あめ、ラムネの販売、生活指導委員会は、子ども縁日です。

全役員二百名と、新庄中学校の生徒十名のボランティアの協力で、晴天の中、大盛況のうちに終了しました。



新庄小学校

## 堀南子ども応援団!

児童保護者の有志等で活動している「堀南子ども応援団」では、九月二十七日(土)に五組十四名の親子と団員が、市内電車とJR高山線を利用して、堀中町の「創造の森越中座」を見学しました。

解説員さんに超高速オフセット輪転機のしくみを聞き、メディアプラザでは新聞の歴史を教わりました。その後は、親子一緒にパソコンで昔の広告「引札」を作ったり、自分の誕生日の新聞記事を検索したり、新聞配達ゲームに挑戦したりして、楽しい時間を過ごしました。



堀川南小学校

## 伝統ある大久保っ子祭り!

十月二十六日(日)、毎年恒例の大久保っ子祭りが開催されました。育成会会員が、学年ごとに分かれ、工夫を凝らし、子どもたちに楽しんでもらえるように創り上げたゲームやバザーを行いました。

スポーツ的なゲームだったり、昔懐かしい遊びだったり、そこには、子どもたちに楽しんでもらいたいという親心が見られます。企画会議は学年ごとに行い、二ヶ月前から計画を立て、準備をします。会員の一番の喜びは、ゲームを夢中で楽しむ子どもたちを見ることです。

これからも、私たち育成会は、子どもたちの健やかな成長を願い、頑張って行きたいと思えます。



大久保小学校

## 東部中学校

### 学力は三日でのびる!?

九月二十日(土)、東部中学校では「学力は三日でのびる!」と題し教育懇話会が行われました。この日は、我が校の奨学会会長である野平慎二氏に話題を提供していただき「学力世界一」の国フィンランドでの調査経験を踏まえ、現在の日本と比較しながら学力に対する持論を話されました。「子どもの学力がのびる!」の学力を伸ばす! そのヒントは家庭や学校での大人の姿にあり「自分がいきいき輝く」「先生を信頼し支える」など、三日と言わず長い目で見守りましょうと展開されました。参加者は真剣に聞き入り実践に向け学びの会になりました。



### 「子育てを考える集い」 親を学び伝える学習プログラム

十月十九日(日)、「子育てを考える集い」を開催しました。

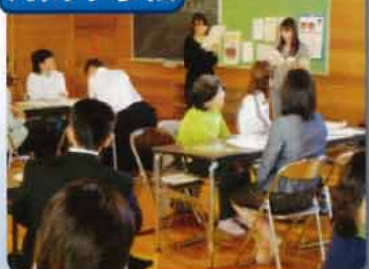
富山県教育委員会の発行する「親を学び伝える学習プログラム」を使って、親の役割について学びました。

今回初めての試みで、小中学校合同での開催となりました。先生方にも参加して頂きました。

それもあって、乳幼児から成人された子を持つ幅広い層の親が集まりました。プログラム(親の役割ってなんだろう?)にそってグループ討議し、ユニークな意見を発表しました。

各年代での貴重な意見を基に親(自分)を見つめ直すことができ、とても良い集いとなりました。

## 月岡中学校





豊かな心を持ち、たくましく生きる力を

持った子どもたちを育てるために

心を育てる必要性

七月五日(土)、県民会館において開始しました、分科会討論を活発化させるため、中学校二分科会、小学校四分科会で行いました。

◇中学校分科会二十四校参加

役員を選出方法やPTA等の活動資金、子ども同士のトラブルの対応、地域とのかかわりなどについて話し合われました。

中でも、役員を選出方法についてほどの学校も苦勞しており、会長が人選を任されているところやブロック単位で順番に選出されること、執行部から選出されることなど様々ですが、会長の重責からなかなか引き受けてもらえないという意見が多くありました。

また、PTA等の活動資金では、年三回の資源回収を行っているところや、バザーを行っているところなどがありますが、部活動の助成のためにPTAとは別の組織をつくり、保護者から寄付をいただいている学校もあります。中には、地域として支援をいただいているところ

るもありますが、子どものいない家庭からの寄付などに課題を抱えているとの報告もありました。

地域との関わりでは、防犯パ

トロールは、時間を分けて小学校と中学校で分担している学校などがありますが、保護者が年一回学校に顔を出すように輪番制を取っているところもありました。

◇小学校分科会四十九校参加

小学校分科会も中学校分科会同様、役員を選出方法や地域との関わり、PTAの活動資金などが話し合われましたが、その他にもPTAや学校行事などについても積極的に意見交換が行われました。

行事については、児童クラブと一緒に餅つきを行っている学校や、PTAで学校田を作っているところや、「ナイトウォーキング」を行っているところ、東京の学校と交流をしているところなど、今後の活動になる参考に意見が多く出されました。中でも、学校に宿泊をしたりグ

ラウンドにテントを張って泊まるころが多数見られ、親子のコミュニケーションの場として活用されていることが報告されています。

今回は、分科会を増やし参加者の発言できる時間を増やすようにしたことや、自己紹介ではなく、まず隣の人を知り、隣人の紹介をする工夫をしたことによって参加者相互のコミュニケーションが図れたと思えます。



九月二十三日(祝)、サンシツプとやまにて臨床心理士の坂本美奈子先生を講師にお招きし講演会を開催しました。

この集いは、親として子どもにどう向き合い、かかわっていくべきかを日常生活の中から考えてみるものです。

本年は、「心」の面から子どもたちとの接し方や話し方、普段の生活の中で何気なく使っている「言葉」を中心とした講演となりました。聞くだけのスタイルではなく、全員参加型の講演会となり、ここでの富山弁で先生のゆっくりとした口調に全員が引き込まれていきました。

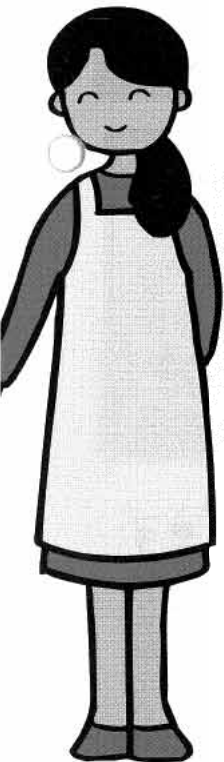
中でもいじめの問題に対して、いじめられた子どもと親の役目を二人一組で交代して、どんな言葉をかけてやるのか、その喋り方や内容で子どもたちはどう感じるのか、またどのような対応が一番適切なのかなどを体験し、相手から目をそらしたり、すぐに言葉が出ないもどかしさに汗する場面もありまし

た。

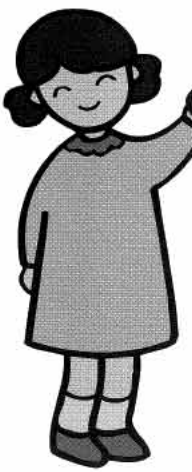
子どもの心を育てていると思っていた親の立場が、実は子どもと共に学び成長しているのだと気づき、これからの接し方を考えさせられる良い機会となりました。



# 市P連各委員会



# いろんな事やっています。



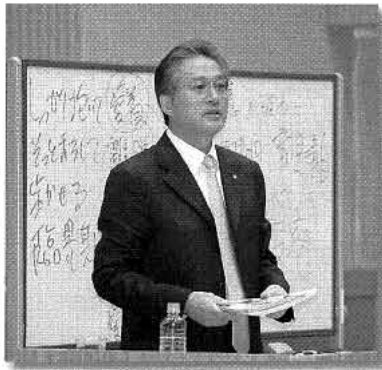
## 親学 教育問題委員会

共に学ぼう ～親が親であるために～

十月十八日(土)、富山市婦中ふれあい館で教育問題懇談会を開催し、市内の小中学校のPTA会員、約百名が集まり、親学について学びました。

学校法人浦山学園理事長、親学推進協会副理事長の浦山哲郎先生を講師に迎え、講演をいただきました。第一部のテーマは「親学の必要性」でした。

我慢できない(キレる)、コミュニケーション能力が乏しい、無気力、無責任など、子どもたちの心の変化の問題や、夜ふかしをしたり、朝食を摂らないという、基本的な生活習慣が乱れている子どもが増えてい



というお話をされ、子どもの心と体の変化の実態を親が十分に認識し、家庭で子どもとどうかわるべきかについての共通理解を深める必要があると、アドバイスをいただきました。グループディスカッションでは、家庭での問題など意見交換を行いました。

第二部のテーマは「親が変わる意義とポイント」でした。「子どもの心を育てることは、親の都合に合わせて、子どもを変えられない」という話もあり、子ども側から「親としての自覚をもち、考え方を改める。考え方が変われば、子育てが変わる。子育てが変われば、子どもが変わる」と、親の成長についてアドバイスをいただきました。

最後に、「教育の原点は、家庭にあり、親は人生の最初の教師である」と自覚を持つてくださる」と助言をいただき、有意義に教育問題懇談会を閉会いたしました。

## 中学生懇談会 生涯学習委員会

子どもの本音、親の本音

平成二十年度中学生懇談会を十一月九日(日)、富山市立東部中学校にて開催しました。

現代の多種多様化した環境のなかで、親の考え方と子どもの考え方に大きなギャップが生まれてきています。親子のコミュニケーションの取り方をテーマに「子どもの本音、親の本音」と題してそれぞれの思いを率直に意見交換を行い、今後に生かしてもらおうための企画です。

富山市内二十七校の中学生一〇八名、PTA関係者、講師、富山大学学生ボランティア、総勢二〇〇名の参加となりました。

各校十名の生徒に事前アンケートを行い、そのアンケート結果を題材に上越教育大学教育学部 稲垣応顕准教授による基調講演が行われ、その後参加者全員が十分科会に分かれて、富山大学学生ボランティアの司会によりグループ討議が行われました。その後、全体会として班ごとの発表を行い稲垣准教授の講評をいただきました。



### ◇稲垣応顕准教授の講評

今日の中学生懇談会はカウンセリングの中での内観診療で行われている手法を取り入れまし。してあげていることより、してもらっていることの方が多。いとか、人に迷惑を被ったこと。多。いのか、人は一人で生きていくのではなく、生かされているのだと思っていること。の。現れです。

今日、ここで学んだことを家の人や学校の友達に話し、また、議論をしてほしいと思います。

市P連役員はこんな委員会にも関わっています。

平成二十年度

市P連関係団体役員名  
県P連

理事・研修委員会・広報委員会  
教育環境問題委員会

家庭教育委員会  
総務企画委員会

助県P親子安全会  
理事・評議員・判定委員

富山市学校給食会  
理事・評議員

富山市学校給食用物資購入委員会  
富山市学校給食用  
物資購入業者選定委員

富山市学校給食  
献立作成委員会・運営委員

青少年育成市民会議  
役員・児童委員会  
青少年委員会

富山市社会教育委員  
富山市児童文化センター運営委員

公民館運営審議会委員  
指導センター運営委員  
民俗民芸村運営協議会委員

科学博物館協議会委員  
教科用図書採択協議会委員  
通学区域審議会委員

市P連役員は右記の委員会等、三十五を超える様々な委員会の委員として活躍しています。



# あいがとう小羽小学校 ~133年、たくさんの思い出~

旧大沢野町の南、前に神通川が流れ、裏には山、そんな豊かな自然に囲まれた場所に小羽小学校があります。

明治八年、須原小学校として本校が誕生してから百三十三年の歴史ある小学校です。そして今の校舎は、昭和二十九年に第一棟が完成してから五十四年、昔のままの木造校舎、廊下を歩くたび床のきしむ音が鳴り、廊下のすみから昔の子どもたちが顔を覗かしそうな、とても趣のある素敵な学校です。けれども、児童の減少から今年度で閉校することになりました。

現在、児童数は八名と少ないですが、みんな元気で素直な子どもたちばかり。たくさんの行



事を、ひとり何役もしなければならぬので、とても働き者です。

地域の皆さんの力を借りて行なう、ふるさとふれあい活動には山菜採り、花壇の花作り、学校田の米作りなどがあります。十月に行なった稲刈りにも、老人会の方々が助っ人として来てくださった、子どもたちと会話をしながら、楽しく作業を行いました。皆さんは子どもたちのことを自分の孫のようにかわいがってください。

最後となる大運動会には、大勢の地域住民の方々に参加していただき、最高に盛り上がりました。

PTAでは、OBの協力も得て、夏休み最後の思い出になればと「学校に泊まるうー」を行ないました。夕飯は子どもたちが作ったカレーライスと流しそ



うめん、夜には真っ暗な校内を歩く肝試しもしました。

こんな思い出の詰まった小羽小学校、閉校するのはとても寂しいですが、我が子が小羽小学校の児童として通うことができ、そして保護者として小羽小学校の一員となれたことをとてもうれしく思っています。

## 編集後記

市P連の広報紙、八十号記念号に巡り会えたことに感謝しております。今回、記念号として一部カラー印刷ができたことを大変うれしく思います。さて、PTA活動に携わるお父さんの役割も以前から比べて増えてきています。父親も学校に足をどんどん運んでいただきたいと思います。家庭では見たことのない子どもの姿にきっと驚くのではないのでしょうか。

また、発行にあたり、関係各位にご協力をいただき、広報委員一同お礼を申し上げます。ありがとうございました。

## 広報紙の愛称

広報紙愛称、「Ren」の名前の意味は（連・錬・恋）という意味がありますが、親子・PTAの連携する思いを込めました。市P連の広報紙は来年度も人から人に引き継がれて行きます。「Ren」もそのように引き継がれる事と思います。多数のご応募の中から、吉田泰彦さんが選ばれました。



委員長と右側、吉田泰彦さん

- 平成二十年度広報委員名簿
- |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |        |       |       |         |       |       |        |       |         |       |       |       |       |       |         |        |       |       |  |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|---------|-------|-------|--------|-------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|--------|-------|-------|--|
| 尾上 深美 | 松浦 忠司 | 松田 恵美 | 星田 康隆 | 小澤 照彦 | 中田 慎一 | 山口 宏一 | 山岸 功一 | 永井 勝信 | 村上 道好 | 金森 敦司  | 山本 高樹 | 山保 博明 | 堀田 由美   | 増山 景子 | 河原 淳子 | 荒田 美紀男 | 綱木 晶子 | 澤田 憲秀   | 吉田 泰彦 | 羽田野 忠 | 藤井 徹  | 前沢 李浩 | 秋田 李志 | 樋口 芳朗   | 田中 悟志  | 吉田 広和 | 委員長   |  |
| 一彦    | （堀川中） | （新庄小） | （池多小） | （城山中） | （朝日小） | （杉原中） | （櫻尾小） | （小見小） | （小羽小） | （藤ノ木小） | （熊野小） | （草島小） | （水橋西部小） | （池多小） | （岩瀬小） | （針原小）  | （東部中） | （山室中部小） | （堀川小） | （芝園中） | （大泉中） | （桜谷小） | （月岡中） | （西田地方小） | （奥田北小） | （広田小） | （北部中） |  |